

長瀬宝登山 「ヤマツツジ再生の丘」

2021年7月11日（日）晴れ

参加者：浅井、池田、小泉、辰尾、森永、横山、芳野、服部

報告者：服部保典

先月、雨天中止となった長瀬宝登山の整備を実施しました。私が宝登山の整備に参加してから3年になりますが、その頃はタケニグサが多く生えていた印象でした。今回の整備ではススキが中心となっています。

ススキは多年草で、根が残る限りいつまでも残りそうです。

今回の作業では移植したヤマツツジの生育が進み、混雑した場所と枯れて疎になってしまった場所が出てきたことから、混雑した場所のヤマツツジ3株を移植しました。

移植後の植物は水を多く必要とするため、梅雨や夕立の雨を狙って行う今の時期や、植物の生育が下がる秋ごろの移植が良いそうです。また、移植後は、葉っぱからの蒸散を防ぐため枝を少し切り落としてやる必要があります。作業当日も夕方から雨が予想されていたので、早めの作業で移植を完了させました。

また、移植する穴を掘るついでに土壌の観察をしようということで、森永さんが講師として土壌の観察を行いました。土壌は動植物の生育により成長していくもので、これまで繰り返されてきた生態系の積み重ねで深くなっていくそうです。

宝登山の土壌は火山噴火（富士山）の堆積物の上に森が形成されて醸成されたと推測されるそうです。

なぜそう分かるかという点、火山噴火により飛散する火山灰は距離により大きさが一定に整い、その上に草本性の植物が成長すると有機物を土壌にため込み黒色に変化していくとのことでした。

宝登山の土はその典型的な例で、草本性の植物が生育した後、森林化し有機物が樹木に一部吸収された黒色から褐色に代わる土壌となっているようです。

1メートルくらい地面を掘っただけでそこまで分かるというのも面白いものですね。



ツツジ移植作業（根切り）



土壌観察



土壌観察



土壌（A1層）（団粒構造）



土壌（B層）（塊状構造）



ウツボグサ